



園だより

うづき
4月(卯月)号

令和8年4月7日
千代田区立お茶の水幼稚園
園長 伊藤栄司

<http://www.schoolweb.ne.jp/chiyoda/ochanomizu-k>

幼稚園で大切にしていること

園長 伊藤栄司

春のあたたかな光に包まれ、園庭の草花もいっせいに芽吹きはじめました。新しい年度のはじまりにふさわしい希望に満ちた季節です。進級してひとつお兄さん・お姉さんになった子どもたちの頼もしい姿を見られたことも大きな喜びです。9日には、かわいらしい新入園児の皆さんをお迎えします。保護者の皆様、ご入園・ご進級おめでとうございます。

非認知能力の育成

さて、本年度の教育・保育の重点として「非認知能力の育成」をより大切にしていきたいと考えています。非認知能力とは、思いやり・がんばる力・自己肯定感・好奇心・協同性など、一般的なテスト(認知能力)の点数には直接表れない“生きる力”をさします。(認知できない力なので非認知能力と表現しています。)

近年、この力が将来の学びや社会生活に大きく影響することが明らかになり、幼児期にこそ育まれる力として注目されています。

非認知能力を育む園での生活

幼稚園での生活は、非認知能力の宝庫です。好きな遊びを見つけて夢中になる姿には、「もっとやってみたい」という探究心が光ります。また、思うようにいかない時や友だちと意見がぶつかった時、心の中には葛藤が生まれます。自分の気持ちを調整する経験を通して、子どもたちは相手の気持ちを考えたり、自分の気持ちを言葉にしたりする力を身につけていきます。

また、やり直したり工夫したりしながら“できた”経験を積み重ねることで、「自分もやればできる」と自己肯定感が育ちます。

やりたいことを実現するお手伝い

幼稚園ではやりたいことが達成できる環境づくりを大切にしています。例えば、何かをつくりたいと思ったら、折り紙や牛乳パック、セロテープやのりがすぐに手の届くところに用意されている。担任は、子どもの様子を見ながら、何が必要か予想し用意します。時には予想が外れ、違うものが必要になることもあります。子どもの思いを最優先にします。

また、遊びをじっくりと継続できる時間や友だちと関わり合える空間、安心して挑戦できる雰囲気づくりなど、環境を整えることが教員の大切な役割です。

子どもたちの小さなつぶやきや気づきに耳を傾け、「面白いね」「やってみたいね」と共に感じ、寄り添うかわりを職員一同心がけています。

ご家庭での非認知能力の育成

家庭でも、非認知能力は日々のささやかな場面で育まれます。「ありがとう」「手伝ってくれて助かったよ」の言葉かけは、子どもが自分の存在を肯定的に感じるきっかけになります。また、うまくいかなかった時には結果だけを評価するのではなく、「がんばっていたね」「ここまで自分でできたね」と過程に目を向けて伝えてあげると、再び挑戦しようとする気持ちが育ちます。

子どもたちは一人ひとり違うペースで成長していきます。できる・できないだけでなく、その途中で見せる表情や言葉、戸惑いや喜び…そのすべてが大切な学びになります。

今年度も、ご家庭と園とで協力しながら、お子さんの心の根っこをしっかりと育んでいきたいと考えています。一年間、どうぞよろしくお願いいたします。